

令和元年度

5月定例教育委員会

会 議 録

(公 開)

令和元年5月24日

1 開 会 14時00分

教育長から、「議題第3号」「議題第4号」については、人事に関するものであることから、非公開での審議が適当である旨の提案がなされ、出席者全員で異議なく決定した。

2 前回の会議録の承認

教育長から、4月18日の4月定例教育委員会の公開部分の会議録の承認について諮られ、出席者全員で異議なく承認した。

3 議 事

◎ 議題第2号 第二次宮崎県教育振興基本計画の変更について

教育政策課長

(資料に沿って説明)

説明については、以上です。

島原委員

大変分かりやすく整理をされているんじゃないかなというふうに思います。今社会が大きく変化していく中で、社会を支える子供たちを育てていくということを考えると、様々な要素が絡んでくるので、まとめるのは非常に難しいかなとは思いますが、必要な要素をできる限り取り込んで、必要な教育をしていかないといけないというのが随所に盛り込まれて、いいものができあがっているんじゃないかなと思います。先日、総合教育会議の中でも色々な議論がされましたけれども、「県民総ぐるみ」「産学金労官言連携」ということを言われていましたけれども、この教育振興基本計画の精神で、地域で一体となって教育に取り組むというのが、教育委員会だけではなく地域と一緒に人材育成をしていくというのが非常に大事な視点だと思いますので、そういう精神が全体に渡って計画の中であって、実際に具体的な施策に移る段階でそういったことが一つ一つ実現できればいいなというふうに思います。個別にということではないんですけれども、全体の基本的なことに対する感想と、まとめの意見ということでした。以上です。

教育長

そのほかございませんでしょうか。

高木委員

2ページの中にある「社会情勢の変化」として「大規模災害への備え」というのがありますけれども、この間震度5弱の地震があって、その際に学校の対応がとても迅速で、あとから色々子供たちから聞いても、非常に平日頃の備えがあったんだろうなと感じるところがありました。高校も含めてですね。やはり地震というと子供たちがとても不安になるんですけれども、この間のようにすぐプリントもそれぞれの学校で出て、こういう時はこうしますとか、ああいうふうにすぐ出してもらえると保護者も非常に安心だなというのと、やはり仕事中に子供はどうしているかと

というのが親御さんの一番の心配で、そういった意味でもこの「大規模災害への備え」というのを引き続き情勢の変化の中に加えていただいで、必ず起きるかどうかということよりも「備えを常に」ということで、何よりも子供たちの不安の払拭ということと保護者への理解、受け入れの練習なども年に1回とか定期的に行っている学校もあるようなので、こういうことは引き続きしていただきたいと思います。この間の震度5弱の時は非常に対処が早かったなど、学校現場には日頃からの備えがあるな、というのを感じたところでした。

教育長

私もこの前は門川高校にたまたま行ったんですが、地域との連携・協働みたいなことですが、そこがちょうど高台になっていて、下の保育園の子供たちの避難場所になっていて、震度5弱ということで保育園の園児全員を連れて上にあがってきて、ちょうど門川高校には生活科があるんですけど、その女子生徒たちが園児の相手までしていて、うまく地域と連携が図れているなど感心したところでした。ちゃんと待機させて落ち着かせて、保母さんと一緒にやっている姿も見ることができました。うまくいっているなというふうに思ったところでした。よく避難場所等に学校がなっていたりしますので、そこは地域と一緒にやっていくということで、この「大規模災害への備え」の一環と「地域との連携・協働」というのを合わせてやっていくのかなと思ったところです。

そのほかございませんか。

それでは、この件については、案のとおり決定します。

◎ その他① 宮崎県学校教育計画懇話会について

高校教育課長

(資料に沿って説明)

説明は以上です。

教育長

はい。第1回を一昨日開催したということですね。この件について、質問や御意見等ございましたらお願いします。

島原委員

大変素晴らしい方々が委員となっていて、期待するところが大きいなと思うんですけども、高等学校の教育は「高大接続」の件にもありますし、大きく変わっていくだろうと思うんですけども、特に今、受験勉強に一生懸命になっている普通科の生徒さんたちの学んでいることに少し見直しがされないといけないと、多くの人考える時代になってきているかなと思うんですね。地域の中でどういうふうに経済が回っているのかということへの理解だとか、それを担う人たちになるためには何をしなければならないのかということ、職業観から、ひいては生き方・人生観みたいのところまで、しっかりと高校の時に考えられ

るような、そういう教育が今後必要となってくると思いますので、そういったことも含めてしっかりと議論をしていただければと思います。以前ハワイに行く機会があった時に、各地域にコミュニティカレッジという、社会人が仕事が終わった後に生涯学習として、大学に色んな方が集まってきて、色んなことについて学び合うということをやっていたんですけれども、例えば宮崎の場合は各地に大学があるわけではないので、高校がそういった役割を担うということもいいのかなと思うんですね。コミュニティスクールというのがこれから具体的にになっていきますので、その先には地域の中の学びの拠点としての高校ということもあっていいのかなというふうに思うんですけれども。そういったことも含めて、地域の中の核としての高校というのが存在する、というふうに考えて議論をしていただければというふうに期待をしております。

教育長

そのほか、ございませんでしょうか。

高木委員

平成20年に協議事項で、「コンピューター利用」とか「携帯電話」の諸問題が出てきていますが、今はもうスマホになってきていますけれども、教育委員会で視察に行かせていただいた時に、日南振徳高校の生徒さんが、「これからは授業でもスマホを使えるようにしていかないと置いていかれる。」と、そういうような発言をされていました。「自分たちできちんと管理ができる。」というようなことも言っていて、その辺の生徒さんたちの意見も踏まえて、また、全国的に見てスマホが教育の現場でどのように使われているのか分からない部分もあるんですが、時代は確かにスマホが重要な位置づけになってきているのは確かなので、「持ってこない」ということだけではなくて、授業でどう上手に活用するかということも視野に入れていかないといけないのかなと思います。生徒さんたちの声を聞きながら、どんどん情報に遅れていくということを言っていたのがとても印象的だったのですが、離れていてもスマホでは世界中につながれますし、情報を入手できるということを踏まえると、スマホ問題は「渡せない」「持ち込ませない」という時代を考えていかないといけないのかなと。PTAの絡みもあるみたいですから何とも言えないところですけども、そういうことを思っているところです。

人権同和教育課長

スマホの件、御意見ありがとうございます。今委員がおっしゃったとおりでございます。高校の校長会のほうでも、現在大部分の学校が持ち込み禁止ということになっておりますが、持ち込み可も含めて見直しを始めたところでもあります。委員もおっしゃいましたが、PTAの方々の御意見、それから現場で指導している先生方の御意見、そして生徒の意見等も聴きながら、今後この部分については検討していくと、そういう段階でございます。以上です。

島原委員

委員のメンバーの方は、学校関係とかPTAの方が多いですけれども、一つ懸

念は、今大きな産業革命が起こっているということです。先日ユニクロの柳井社長が言っていましたけれども、「大きな産業革命が起こっている。それに対してあまりにも日本人は危機感がなさすぎる。」「今までとは違う断続的な変化が起こっている。」というようなことを言っていたんですけれども、学校教育がそういうふうに変わらないといけないということではないかもしれないですけれども、社会で大きな変化が起こっているというのは頭に入れた上で、基礎教育をやりつつ、変化に対応できるマインドをしっかりと持つというようなことも含めて、社会で何が起こっているかというのは問題提起として、その対応まではいかないかもしれないですけれども、そういう社会に子供たちが出て行くんだというのはどこかで意識をしておく必要があるかなと思いましたので、意見として述べさせていただきました。

教育長

確かに、社会・世界が変わる中でそのあたりは踏まえてというか、学校側や教員がしっかり認識した上で、対応していかなくちゃいけない時代なのかなと。そういったことを踏まえた学校運営をしていく必要があるのかなと思います。そういった意見も含めて、懇話会で議論していただければと思います。

そのほかございますか。

松田委員

この協議テーマの「新しい時代の県立高等学校の在り方について」ということが、漠然としていて分からないんですけれども、この懇話会を開くにあたって「新しい時代」というのが情報教育なのかキャリア教育なのか、または地域・地方創生なのか、そこが何でもいいということなのかなと、それぞれの方が「新しい時代」をどう考えていらっしゃるかといった時に、漠然としていいのかな、と思ったところです。

高校教育課長

皆さん御承知のとおり、「Society 5.0」であったりとか、そういうことが叫ばれていますけれども、これからの変化の激しい社会を生きていくために、高校生がどういった資質や能力を身につけなければならないかということを考えた時に、高校でそういった資質や能力を身につけさせるために、各学校が学校目標を決めて、それに合った教育課程を設定して、そしてそれが上手くいっているかというのを評価して改善していくというサイクルを回しながら、大学に繋いでいくということで、そして社会に出た時に、この変化の激しい社会を生き抜いていくことができる子供たちにしていきたい、ということでの新しい時代を生き抜くための高校教育の在り方ということでもあります。

松田委員

ではこの方々は、今課長が言われたようなことを踏まえて意見を出されるということでもよろしいんですね。

高校教育課長

実はもう第1回の懇話会がありましたけれども、第1回目の協議の主な論点としては、協議をしやすいように、高等学校と地域との連携の在り方について、いわゆる地域との連携推進に必要な学びとはどのようなものであるかとか、地域にとっての学校の存在とはどのようなものであるべきかとか、今後の小規模校の在り方はどうあるべきか、これは先ほど委員が言われましたコミュニティカレッジの話も出まして、コミュニティハイスクールもあってもいいんじゃないかというような話もありました。それから、柱の2本目としましては、「県立高等学校の拠点化・集約化・魅力化について」というテーマで話し合い、意見をいただきました。普通科、職業専門学科、総合学科の在り方はどうあるべきかであったり、これからの時代を生き抜くための学力向上に向けた取組はどうあるべきか、生徒の多様なニーズに応じた取組についてどうあるべきか、というようなことで第1回目は議論したところであります。

松田委員

数多く意見が出されて、その中から喫緊の課題を焦点化していくということによろしいですか。今後2回目とかでは、その中でも県立学校の教育整理計画等に深く関わるものに絞り込んで今後話し合いがなされていくということによろしいんですね。

高校教育課長

第1回目は意見が出やすいように非公開でやらせていただいたんですけども、色んな角度から色んな意見を出していただいております。今後はそこで出た意見を事務局のほうでまとめていって、中間のまとめをしていくという予定であります。

教育長

各地域での中等教育や高等教育の在り方、人口減少傾向はあるでしょうから、どういった整備、あるいは残していくことも含めてその在り方について議論していくということですね。定数の問題も今後出てくるんでしょうけども。地域との連携の関係も含めてもっともっとやっていけたらということで、例えば委員の中の高砂工業の仙臺さんとか、彼女は社長さんですけども、都城市と連携して企業を募って奨学金制度を作って、その企業グループの世話役とか取りまとめをされてますね。地元に残していききたいとか、あるいは子供の貧困の問題も含めて、子供たちにしっかり教育を受けさせていきたいと活動されている方ですので、そういった意味でもまた意見が出てくるのかなと、そんな期待もしているんですけども。いずれにしてもその地域の課題ですとか、中学校から高校にあがって、大学あるいは社会人へと進んでいく、そういった教育機関としての役割について意見が集約されていくといいなというふうに考えています。

松山委員

新しい時代だったり、産業界が大きな変革があったりという中で、実際教育の在り方というのは大きく変わっていく時代なのかなと、今御意見をお伺いして思っ

たんですけれども、一方でさっきの議題なんですけれども、基本計画については元々の計画があって固定のまま内容を変えるというか、根本的な変化というのがなかなか具体的に見えないなという印象を持っているので、実際この時代は職業自体も変わっていくと思うんですけれども、AIができることはAIがして、人間は想像力のある仕事の方に特化していくというような考え方もあるでしょうし、そういった形で、高校から社会に出ていく生徒も多いと思うので、これまでの伝統的な教育方法だけでなく時代に合った教育とはどういうものか、というのを、この外部の見識のある方々からの意見を積極的に取り入れるいい機会なのかな、というふうに思いました。

教育長

そのほかございませんか。

それでは、この件については、これで終わりたいと思います。

◎ その他② 宮崎県社会教育委員会議の提言について

生涯学習課長

(資料に沿って説明)

説明は以上です。

松田委員

社会教育委員の方々と検討されて素晴らしいものが出来ていると思うんですが、これはこの後、各市町村にはどのようにして伝わっていくんでしょうか。

生涯学習課長

こちらの提言書につきましては、各市町村、社会教育・生涯学習主管課の方にも配付いたします。そして、県内23市町村に社会教育委員の方々が200名ほどいらっしゃると思いますので、その方々にもこういった提言をお配りしまして、周知をしていくということです。社会教育・生涯学習の本丸であります、いわゆる市民の自治能力を高めていく、「市民教育」「シチズンシップ」というところ、「市民性の涵養」を目的としていかないといけない、こういった視点が大事なんだというところを、私どもの周知が足りない部分もございましたので、今後周知を徹底していきたいというふうに思っております。

木村委員

読ませていただいて、色々なことがあるなと思って読んでいたんですけれども、「地域コミュニティの維持・活性化」というところで、私自身が日向の塩見というところのまちづくり協議会に入らせていただいて9年目になるんですけれども、こういったものの持続だったり継続することの大変さや、中心となって動いていく人たちの人材を確保することの大変さも身にしみているところです。なので、毎回、毎年、課題が出てくるんですけれども、それを定期的に定例会や話し合いなどで解決していくためにも、専門的なことを助言してくださる方がいてくれたらな

と、そういうふうに思っていたので、この取組が上手くいくことを願っています。以上です。

生涯学習課長

実は年に2回、各市町村の生涯学習・社会教育担当者の研修会を実施しております。まだ社会教育に携わって数年の方は基礎講座、ベテランの方は専門講座という形で、教育研修センターの方で研修を行っております。そういった中にも、こういった意見とか考え方、県内の取組も周知していきたいと思っております。ありがとうございます。

高木委員

意見ですけれども、今、自分が生活している姫城地区というところでは、とにかく総会づくしで、所属してれば全部出なければならないというところがあります。まず姫城地区の社会福祉協議会の総会、姫城地区の社会教育連絡協議会の総会、それからまちづくり協議会、それぞれ別々にするんですね。それぞれ予算を持っていて活動は別なんですけれども、ここに書かれている公民館の活動内容などを見ると、色々重なるんですよ。プラットフォームということがよく言われていて、せっかくプラットフォームに集まってきたら、一元化できることをどんどんして行って、というの、地域が少し疲弊してきているようにも思います。PTAは入れ替わっていくからいつも元気なんですけれども、新たに来た人たちが地域に入ってきてくれないという難しい面があって、そこは自分たちの努力なんですけど、せっかくプラットフォームという次世代に繋ぐ仕組みづくりとしたときに、一つにできるところ、似たようなものは一元化していくと。そもそもの走りは行政の主導というか、社会福祉協議会で言えば「『我が事・丸ごと』地域共生社会づくり」というのがうたわれていますけれども、そういう一環の中で地区社協というのは役割はあるとは思いますが、似ているところがいっぱいあるので、出る人が偏ってくるとみんな遠ざかっていくというか、そこが社会教育関係の集まりをしていると辛いところだなと思います。自分たちではどうしようもないところに来ていて、プラットフォームで集まったときに、話し合えたりするいい機会があるといいのかなと思います。あと、社会教育というと、今ガールスカウト活動に携わっているんですが、どんどん減ってきて、一方ではキャリア教育だとか色んなことの中でボランティア活動というのも学校教育では大事にされていますが、このガールスカウトとかボーイスカウトの方々は色んな活動を非常に一所懸命されています。このまま消えていくのは非常に残念で、でも人数が減ってきていまして、都城に13団あって関わっているんですけど、本当にこれから先なくなるんじゃないかなと心配してます。世界に繋がっている活動でもあり、元々はボランティアをしている活動であるので、そういう団体の悩みとかもプラットフォームの中で共有しながら、学校が協力するというのは難しくても、そういうものが活かせる知恵などが共有できるといいなど。片方では疲弊している、片方ではいい活動が消えようとしているという、この辺が今の社会教育を見ていて辛いところだなというふうに感じていて、この提言を通して、社会教育関係が元気になるというのは、地域にとって大切なことだと思うので。一方で松田委員や島原委員と話していた中で、意外に社会教育活動とかどんなことをされているか、教育委員が知らないこともあるので、その辺の連携も必要なのか

など思ったりしました。

教育長

私もこの提言をいただいた時に会長さんとも話したんですが、人口の多い都市部、例えば三大市、宮崎、延岡、都城あたりはまだいいんですけども、それ以外はそれぞれ人口が減っている状況だということでした。三股町と木城町は若干増えているところがありますけれども、一般的には減ってきている中で、高木委員がおっしゃったように、全て同じような協議会がたくさんあって、これは社会教育についてなんですけれども、やはり暮らしとか福祉とか近いようなコミュニティというのをどうやっていけばいいかという課題が出てくるのかなということ、恐らくその自治体さんがどうしていくのかということをよく考えないと、特に中規模以下の自治体は一つの組織みたいな感じで考えていかざるを得ないのかなと。元気のいい方は社会教育、しっかりやれるんですけども、逆に体に支障があるとか、色んなものを抱えている人はそういう相談もしていかなくちゃいけないということも含めて、色んな相談の場というか協議の場を一元化していくということ、行政の方でどう考えていくのか、というのが大きな課題になっていくのかなというふうに思います。先ほど6月議会の議案の中で、前職のところでは中山間地域の基本計画を同じように出すんですけども、「集落を維持できないところは必ず言うように。」と言って、言わたんです。どう維持していくかということ、考えなくちゃいけないところが、かなりの数あるものですから、そういったところも含めて社会教育あるいは地域福祉、そういったものの連携も出てくるのかなと。ガールスカウトやボーイスカウトも自然の中での教育だけじゃなくて、ひょっとしたらその延長線上で見守りとか、そんな機能もやっていかなくちゃいけないのかなと、そういう時代なのかもしれません。先ほど話がありましたので、市町村に送って、それぞれの地域でまた再度踏まえた検討をしていく必要があるんじゃないかと思えます。これからかなり変わっていくのかなと思えますので、また委員の皆さんの御意見を聞きながら進めていくことになるのかなと思えます。

松田委員

先ほどほかの委員からも言われたように、これからは行政のリーダーシップが問われると思うんですね。特に社会教育主事が大幅に減っているはずなんです。かつての半分以下ですね。その状況でこの提言書が本当に26市町村に浸透するのか、先ほど教育長が言われた中山間地域においても、教育委員会の中に社会教育主事が配置されているはずなんですけれども、そういった方々を使っていかないと色んな団体の方をまとめていくことはできない、そこをとりまとめるのはやはり行政の部分だと思います。社会教育主事が段々と減っている中で、こういった提言が本当に浸透していくのは大変かなと思いつながら、ましてや今まで学校支援、地域保育事業とか、子育て支援事業、コミュニティセンターについても、教育分野がかなり関わってきて、学校も地域も活性化されたと思うんですね。そういう意味では、生涯学習課は大変だと思うんですけども、ぜひこの提言書が各市町村に浸透することをお願いしたいと思います。以上です。

松山委員

質問なんですけれど、この提言に関してコミュニティスクールとの関係というか、これを利用して進めていかれる予定があるかというのをお尋ねしたいです。

生涯学習課長

コミュニティスクールに関しましても、地域と共にある学校づくりですので、この取組の一つの例という形にはなろうかと思えます。私どもも今コミュニティスクールの直接の担当ではありませんけれども、地域学校協働活動とコミュニティスクール、これは両輪でまわしていくということが効果的でありますので、そういった意味での市町村への支援ですとか、研修会に私どもも行って説明をしたいと思っております。「学校支援地域本部事業」という事業は一方通行の支援でしたけれども、これからの「地域学校協働活動」は双方向の活動をしていきたいと思いますので、コミュニティスクールも含めて色々な形で主幹課とも連携を取りながら、この持続可能な社会づくりの一つの方策でもありますので、支援をしていきたいというふうに考えております。

島原委員

これまでも色々な組織が色々な取組をしてきていると思うんですけれども、それとの大きな違いというのがないと、また新しい組織作るの、みたいな感覚があると思うんですよね。これまでそれぞれがやってきたことをどう変えていこうとしているのかというのが、明確に分かるといいんじゃないかなと思うのが一つです。それと色々な団体が活動しているんですよね。業界団体もありますし、経営者団体もありますし、そういったところも、例えば一つのテーブルについてお互いに意見交換するとか、協力しあえば色々なことができると思うんですけれども、今は力が分散しているような印象もあるので、そこをどう考えられているのかという点をお聞きしたいんですけれども。

生涯学習課長

今本当に色々な分野で、委員も含めましてそれぞれの専門分野で色々な活動をされています。先ほどボーイスカウト、ガールスカウトの話も出ましたけれども、これまでは一つの専門とする課題を自己完結型で解決しようというのが主流な部分もございましたので、今回こういったプラットフォームという考え方でお互いの得意な分野をいかしながら、そして自分たちにはないものはお互いに補完しあいながら、一緒になって活動していく、ハブ的な機能という考え方も含めてそういった取組、既存の会をどう上手くいかしていくか、どう繋がっていけば効率的に運営できるのかというようなことも含めて、そういった意味で今回宮崎県ならではのということで、都市部と郡部の取組例を敢えて差し込んでおります。「よりよい活動、地域を目指してこんな繋がりでこういう活動をしています。」というような紹介も委員さんの方がしたかったということもございましたので、そういった情報も含めて好事例を発信していきながら、こういった考え方や取組が充実していけばいいなというふうに考えております。

島原委員

なるほどですね。プラットフォームによって、「地域課題解決学習」「学び」ということなんですけども、地域課題解決を自ら行うみたいなどころまで踏み込んでできると、取り組む人たちも達成感を感じながら、参画意識ももっと高まって、ということになるんじゃないかなと思うんですよね。ただの「学び」に終わらせない仕組みが何かできるといいんじゃないかなと思います。

生涯学習課長

おっしゃるとおり、まさしくこれまで「学び」で終わって、自分は満足した、仲間ができた、友達ができた、とか、趣味とか個人の中で留まっている学びが多かったんじゃないか、偏ってたんじゃないかと思います。やはり学んだことを住んでいる地域のために活かすと、地域のまちづくりとか人づくりに自分は色んな方と知恵を出して、課題を引き受けて、たくましく自分たちで解決していくぞと、そういう市民を育てていかないといけない。そのあたりはこれまで足りなかった視点なのかなというところで、それをやっていくにはプラットフォームとかそういうことを活かす場がないといけないというところで、今回提言をさせていただいたところですよ。

島原委員

はい、ありがとうございました。

教育長

よろしいですか。

では、この件についてはこれで終わります。

◎ 次回会議の日程等について

教育長

それでは、次回定例会は、6月25日、火曜日、14時からとなっておりますのでよろしくお願いいたします。

これより後、会議冒頭の決議により非公開とします。

傍聴者の方は、御退席をお願いします。

暫時休憩とします。